

(1) 河川・海域・樹林地・公園等の保全等

	課題・問題点	対策・意見	夢
<p>セミナー・ワークショップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・陸域で発生したマイクロプラスチックが海に流れ着き、魚類などにも影響を与えている。【21】 ・マイクロプラスチックや海洋汚染が注目されているので、もっと関心を持ってもらいたい。【90】 ・青潮によって生きものが死に、異臭を放っている。【91】 ・赤潮や青潮の発生により生物が死んでしまう。【115】 ・底生生物などの小さな生物が海辺に少なくなっている。【116】 ・アサリの稚貝などは釣りの餌になるのか、業者が獲っていつてしまう。【117】 ・水が海から谷津田までつながっておらず、魚やカニなどが海から遡上できない。【120】 ・里山に触れる機会がない。【132】 ・子育てで子どもたちに里山を体験させてこなかった。【133】 ・里山・里川・里海といった流域一帯の保全が必要だが、分断されており、相互の関係を保つという視点に欠けている。【257】 ・おゆみ野地区は水が地下に浸透せず、湧き水も出なくなっている。【258】 ・都市と里山の二項対立から脱却し、都市のなかにどう緑を存在させるのか。【270】 ・水源を深く掘らないと地下水をとれなくなっているなど、土壌の保水性が下がっている。【296】 ・大雨などが発生しても土壌の保水性がないため、表層で流れてしまっている。【297】 ・斜面林では、木や土が乾燥したことにより、ナラ枯れが発生している。【313】 ・花見川の水質は以前より良くなったが、放水路などは浄化されていないようである。【174】 ・里山を切り開いてできたまちで人工河川があるが、三面コンクリートで川なのか水路なのかといった印象を受ける。【176】 ・花見川は一級河川なので、管理は基本的に県だがサイクリングコース部分は市が管理している。県と市では剪定の頻度も異なり、場所によっては刈り残しが出てしまっている。【177】 ・サイクリングコースは花見川の他にもいくつかあるが、本格的な自転車で行くサイクリストがいて危険を感じる。【179】 ・温暖化で大雨や台風が増えたことで、河川管理が治水重視になってきている。【185】 ・花見川リバーサイド構想を市がどこまでやる気があるのかと疑問に感じる。【187】 	<ul style="list-style-type: none"> ・涵養林のある地域の住民に、その大切さを知ってもらう。【143】 ・公園に自然環境に触れて、遊びながら生き物を学べる場を設ける。【243】 ・プレーパークを活用して、体験の場を設け、環境教育を行う。【161】 ・おゆみの道、緑、せせらぎを活かし、自然と触れる機会をつくる。【274】 ・川のコンクリート護岸をできるだけ土に戻し、市民が川を意識できるようにする。【338】 ・河口部分にゴミを集める装置をつけ、海までゴミが流れないように装置を設置する。【327】 ・森林の保水性を高めるため、現在は落ち葉を残すようにしている。【316】 ・水質の調査も大切だが、海面上昇の観点から海辺の調査を行う。【360】 ・河川に限らず、流域間の情報の共有の場を設ける。【306】 ・すべての河川に同じ機能を持たせるのではなく、立地や規模によって果たす役割を分けて考える。【309】 ・残す森林の指針を示す長期ビジョンを策定する。【321】 ・今後の森林保全を見越した管理方法や照葉樹林や在来種を中心とした森林づくりを行う。【322】 ・雨水浸透ますなど、土壌の保水性を高める技術を積極的に導入する。【311】 ・水環境・水循環のプロセスにおいて、自然に近い状態に戻し、人工的なものではないものとする。【No.497】 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが親しめる水環境を創出したい。【22】 ・公園以外の緑を手入れすることをおして市民の理解を深められるとよい。【210】 ・土を掘ったり、水遊びができる児童公園を増やす。【157】 ・子ども達が自由に遊べる広場を増やしたい。【235】 ・公園や自然体験は禁止事項ばかりにするのではなく、遊びながら学習ができるようにしたい。【244】 ・都市の中でいかに緑や自然を豊かにしていくかについて取り組みたい。【271】 ・市民、その周辺の居住者が気持ちよく自然体験をし、こどもたちが自由に遊べる空間づくりができると良い。【272】 ・雑木林や緑の涵養林を復活させたい。【134】 ・小鮎釣りが楽しめる小川を復活させたい。【136】 ・花見川は堤防が築かれている区間が多いが、自然に近い状態に戻す必要もあると思う。【119】 ・弁天橋付近に住んでいたが、海から丘の変化の景観を楽しめるのが良かった。【173】 ・湧き水が出るように、開発前の状態に戻したい。【266】 ・海と川とをつなぐモデルコースをつくって、レンタサイクルで行き来できるようにしたい。【344】 ・地下水脈を大切に、井戸水が飲料水として使えるようになってほしい。【363】 ・マイクロプラスチックなど海洋汚染までつながらないようにしたい。【327】 ・市と県と市民とで、海の豊かさをテーマにしたタイムテーブルをつくりたい。【342】 ・都市部でも水辺に親しめる環境を取り戻したい。【339】

	課題・問題点	対策・意見	夢
	<ul style="list-style-type: none"> ・里山と里海をつなげる河川の役割が果たせていないため、市は川を排水路として捉えているのかと疑問に感じる。【294】 ・河川の両脇がコンクリートで固められ、水を流すだけの施設になっており、保全・管理ができていない。【295】 ・千葉のすべての海岸で、海洋ゴミやマイクロプラスチックゴミが多い。【348】 ・千葉みなとの人工海岸にアオサが大量発生し、腐って異臭を放つ。【349】 ・青潮や赤潮により水質汚濁が発生したり、臭いが生じたりする。【351】 ・隣接する自治体の海辺や陸上の環境も、千葉市の海の水質に影響している。【352】 ・暗渠となっている河川には、ゴミが多く浮いていて汚く見える。【357】 ・都市部で河川に捨てられたゴミが、海辺に流れ着いている。【358】 ・幕張の浜は砂浜が削られ、海面が上昇しているように感じる。【360】 ・子どもが自由に遊べる場や、体験のできる場が少なくなっている。【241】 ・公園の整備にあたって、住民の声が十分に拾えていない。【242】 ・地域全体的に水、雨水が浸透できない都市構造となっている。【263】 ・支川都川は三面コンクリートの水路となっており、環境的に良いことではない。【264】 ・河川沿いに植物が繁茂していることでゴミが溜まり、またゴミを拾いに人が行くことができない。【325】 ・都市部の河川は暗渠や直立護岸の箇所が多く、水に親しめない。【332】 ・規制が多いため、子どもたちの声が公園であまり聞かれない。【377】 		
アンケート (市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートタワーや稲毛海岸の海が汚い。【No.8】 ・モノレール周りの水場が汚い。【No.11】 ・海にごみが多い。【No.30】 ・海の水が汚い【No.31】 ・花見川流域を中心とした水環境・水循環の再生・保全が課題である。【No.27】 ・田んぼや樹林地が放棄され荒れている。【No.34】 ・公園の樹木が伐採されている。【No.49】 ・生活排水が河川に排水されている。【No.79】 ・池や水路は土砂やヘドロの堆積が進んでいる。【No.64】 ・川が海に繋がっておらず、魚の遡上を阻んでいる。【No.91】 	<ul style="list-style-type: none"> ・川や海に汚水を流さないように抑制する。【No.345】 ・釣り禁止区域をパトロールする。【No.356】 ・水と接する公園を増やして欲しい。【No.483】 ・川の環境作りや水質調査・改善はもちろんだが、その水を作り出す大地の事から考えてほしい。【No.487】 ・水質改善のために、他地域の成功事例をベンチマークにしたほうがいい。【No.488】 ・水辺のゴミ拾い運動を町内会活動に取り入れる。【No.489】 	<ul style="list-style-type: none"> ・海の生態系を守りたい。【No.165】

	課題・問題点	対策・意見	夢
	<ul style="list-style-type: none"> ・川が濁っており、臭う。【No.92】 ・川にゴミが溜まっている。【No.93】 ・宅地化による林地の伐採で地下浸透する雨水が少なくなり、河川流域の植物の生育やそこに棲む生物に悪影響を与えている。【No.94】 ・釣り禁止の大百池で釣りをしている人がいる。【No.106】 ・浜田川の悪臭がひどい。【No.111】 ・湧き水が少なくなってきた。【No.114】 ・古木、枯木が増え、樹木の更新ができておらず、涵養林の保全が出来ていない。【No.117】 		
アンケート (事業者)	<ul style="list-style-type: none"> ・河川等の水質維持が課題である。【No.130】 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺住民が触れ合える水辺環境の維持・拡大。【No.419】 ・河川河口域（特に干潟や河岸）の自然再生。【No.419】 ・豪雨の水を活用できるよう、地面の保水力を高める工夫や技術開発を進める。【No.498】 	<ul style="list-style-type: none"> ・水の利用を抑制して環境負荷を減らす。【No.232】
アンケート (活動団体)	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地に降った雨のほとんどは浸透せず、雨水管に吸収されている。【No.137】 ・花見川、浜田川の流れが悪い。【No.135】 ・都市化の進行により、湧水の場所と水量が減少している。【No.136】 ・公園緑地においても表層土が流出し、裸地化・乾燥化が進行し、樹木の生育にも悪影響を及ぼしている。【No.136】 	<ul style="list-style-type: none"> ・3面コンクリート状態の河川を自然流路型かつ親水型河川に改修する。【No.147】 ・環境的に可能であればアマモ場を創出する。【No.466】 ・花見川の水質の改善。【No.467】 	

(2) 貴重種の保護

	課題・問題点	対策・意見	夢
セミナー・ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市のレッドリストを活用したいが、更新されていない。【318】 ・オオムラサキの幼虫やメダカを業者が捕獲しに来る。【255】 ・市のレッドリストの見直しが行われていない。【256】 ・強力な街路灯によりヘイケホタルの生息域が狭められている。【333】 ・坂月川でレッドリストに載っているニホンアカガエルの卵が一晩で半減した。【365】 ・一部の生物好き、自然好きの人たちの取り組みでは、課題は解決しない。【366】 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市レッドリスト（千葉市の保護上重要な野生生物）の見直しを進める。【4】 ・市は泉谷公園のほたる生態園に予算をかけるのではなく、ホタルが減少した原因と対策を検討する。【265】 ・特別緑地保全地区の森林保護のために、千葉市のレッドリストを活用する。【318】 ・安全性とヘイヤボタルの生息が両立できる証明を検討する。【333】 ・コアジサシの保護のため、海上エリアにおける一定の期間の規制を行う。【355】 ・コアジサシのひなを地域猫が捕食しないよう対策する。【356】 ・貴重生物をインターネット上で販売されないようにする。【365】 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市の空にトキが戻ってくる。【27】 ・千葉市内の河川にウナギが遡上する。【28】 ・千葉市の野原にニホンミツバチが飛び交う。【29】 ・田んぼに昔いた生物が戻った姿を見たい。【135】 ・トキが千葉の空を舞う姿が見られるようになってほしい。【390】 ・キャンプ場に井戸水を使ったビオトープを整備し、ホタルが見られるようにする。【401】
アンケート (市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・アライグマ・ミシシッピアカミミガメ等特定外来生物による既存種の減少が問題である。【No.2】 ・昆虫が減った気がする。【No.52】 ・ブラックバスやブルーギルにより在来種が圧迫されている。【No.58】 		<ul style="list-style-type: none"> ・希少生物が沢山いる環境になると良い。【No.169】 ・環境による生物の絶滅がないようにしたい。【No.170】
アンケート (事業者)	<ul style="list-style-type: none"> ・川に生息するゲンゴロウなど生き物が住みにくくなる。【No.127】 		
アンケート (活動団体)		<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な植物は除草作業で簡単に失ってしまうので、維持増殖を考えて作業をする。【No.469】 ・希少種の増殖を試みる。【No.471】 	

(3) 外来種対策

	課題・問題点	対策・意見	夢
セミナー・ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・外来生物を捕獲するための罠の数が少ない。【1】 ・外来生物を捕獲するための罠の数が少ないため、外来種がいるにもかかわらず返却する必要がある。【2】 ・外来生物が増えており、在来生物を圧迫している。【127】 ・支川都川の上流は外来種すらいない。【186】 ・大和田排水機場でポンプアップして流しているため、ナガエツルノゲイトウなどの外来生物が流れ出てしまう。【188】 ・流域途中でたまってしまっているナガエツルノゲイトウを除去する取り組みは、県ですで行っている。【189】 ・外来種を駆除したいが、ボランティアで管理する池がいくつもあり、駆除しきれない。【213】 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来生物に関して議論を深める。【5】 ・外来生物の実態を把握する。【6】 ・集中的なアライグマ対策のために罠を設置する。【33】 ・各自治体で積極的に外来種対策に取り組む。【34】 ・新たに指定される特定外来生物への対応を準備する。【128】 ・野生外来生物の駆除は市が行う。【211】 ・野生生物を珍しがって飼育しないよう啓発する。【211】 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄される生き物がいなくなる。【No.186】 ・家庭からの遺棄生物を引き取る活動を行いたい。【No.358】
アンケート (市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・花見川に特定外来生物がたくさんいる。【No.24】 ・花見川にナガエツルノゲイトウが繁茂している。【No.25】 ・外来種（ミシシッピーアカミミガメ、アライグマ等）が増えている。【No.34】 ・外来種により在来種が減少している。【No.36】 ・外来生物のまん延による在来種の減退。【No.40】 ・市内各所でアライグマやハクビシンなどの出没が絶えず、安易なコイ等の放流による影響も懸念される。【No.58】 ・池や水路は土砂やヘドロの堆積が進み、外来種の増加により生物相が貧弱になっている。【No.58】 ・特定外来生物の駆除を行う必要がある。【No.108】 	<ul style="list-style-type: none"> ・水環境の外来種に関しては、安易な放流や遺棄・商業目的の放流の防止が必須である。【No.358】 ・外来生物を発見した時に迅速な駆除の対応をお願いしたい。【No.496】 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来種対策について十分な議論が行われ、殺処分する動物が減少する。【No.210】
アンケート (事業者)	<ul style="list-style-type: none"> ・特定外来生物の駆除を行う必要がある。【No.108】 ・外来種の流入による在来種の絶滅、生態系の異常。【No.125】 ・海外との玄関口の県のため外来生物が最初に入ってくる可能性があり、その前線で防御しなければならない。【No.123】 ・外来生物の増加による生態系や農産物への影響。【No.126】 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来生物を発見した時に迅速な駆除の対応をお願いしたい。【No.496】 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の個体数が適切に制御され、さらに外来生物の影響も最小限にする。【No.235】
アンケート (活動団体)	<ul style="list-style-type: none"> ・外来種に対する啓発が不足している。【No.140】 	<ul style="list-style-type: none"> ・侵略的な外来植物の除去による植生の回復。【No.464】 	

(4) 生物多様性の保全等

	課題・問題点	対策・意見	夢
<p>セミナー・ワークショップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の増加による倒木が増えることによるビオトープネットワークの分断により、生物への影響が出ている。【64】 ・生物多様性が人間の都合によって分断されているため、人間も生物の一部として生物多様性を捉えるべきである。【65】 ・COP10 で生物多様性を失わせないと宣言したにもかかわらず、外来種が増え、生物多様性が失われている。【66】 ・千葉市内の貴重な湿地帯に太陽光発電パネルが設置され、生物多様性が失われている。【69】 ・地球温暖化には関心が高いが、生物多様性には関心が低い。【109】 ・バイオミミクリーとしてカワセミの羽ばたきを騒音防止の装置に活かすなど、生物と日常生活はつながっているのに、皆気づいていない。【110】 ・米の作り方が変わり、冬は田んぼに水がなく、生物を育む環境でなくなってしまう。【125】 ・水環境や生物多様性について、市民に知ってもらう機会が十分ではない。【141】 ・水環境や生物多様性の情報が少ないと感じる。【142】 ・くらしと生物多様性が感覚的に結びついていないのは、人工的なものだけで社会が成り立っているように感じられることが原因ではないか。【145】 ・生物多様性について、関心を持つ人が少ない。【146】 ・十分な森があって多様性が保たれるので、林地が減っている。【200】 ・公園管理が機能性や景観重視となり、生物多様性に配慮した管理になっていない（公園自体の乾燥化、保水力の低下）。【202】 ・興味本位で保全や復元すべき生物を決めると、在来種がいなくなってしまう。【217】 ・水環境や生物多様性について市民や子どもが理解し、知る環境が少ない。【276】 ・水環境について、緑や生き物を知る環境や体験の場が少ない。【277】 ・水生生物の捕獲や外来生物の放流より、固有の生物多様性が保たれるか心配である。【300】 ・田んぼは生物多様性や水の大切さを教えてくれるため、理論だけでなく、体験が大事だということを学校教育で伝えてほしい。【379】 ・花見川の汽水域は干潟環境の植物が育っている。調査し保護することが必要である。【381】 	<ul style="list-style-type: none"> ・単純に生物多様性についての活動をして改善されないため、具体的にどのような取組みをすればよいか考える必要がある。【19】 ・大型鳥類の餌が豊富に捕れる環境を創出する。【53】 ・生物多様性のために、まちの小さな空間から谷津田までを繋げる。【54】 ・生物多様性のために、公園の維持管理だけでなく住宅の庭も管理する。【55】 ・生物多様性を保つため、里山を利用する。【58】 ・特定固有種を増やすことで在来種の消失にもつながるため、保全についての基準を考える。【70】 ・生物多様性についての実践者を増加させる。【71】 ・社会教育での生物多様性について、部署横断や市民も一緒に取り組む。【72】 ・谷津田の成り立ちや生物多様性を、生活の営みや文明の歴史の視点で知らせる。【76】 ・加曽利貝塚の今後の維持の仕方を考える。【77】 ・生物多様性を守るために、ポテンシャルを数値化し、ネットワークにして保全に取り組む。【82】 ・全面的に生物多様性に取り組めるよう、企業への周知を促進する。【83】 ・都市の生物多様性が劣化しないよう、工場敷地や企業用地にビオトープを整備する。【84】 ・生物多様性に寄与するビオトープを維持し続けられるかが課題になるため、専門家などと一緒に継続的に取り組める体制を整える。【87】 ・都市開発と谷津田の保全のオフセット制度などを設け、企業に対するインセンティブを与えたり、すでにある環境に関する認証制度を使えるようにする。【88】 ・SDGs のようにすべての水環境や生物多様性のことを“ひもづけ”していくことで、一般人にも関心をもってもらおう。【170】 ・生物多様性の点からコイの餌やりを禁止する。【212】 ・教育の場として、生物多様性そのもののことを知りながら体験できるような取組みをつくる。【278】 ・気候変動による災害の対策として、環境保全や生物多様性を考える。【362】 ・環境が変われば生物も変わり、多様性が見られるので、現場に行くことが重要である。【376】 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題をテーマに取り組んでいるアートやマンガを通じて、生物多様性を身近に感じてもらえるといい。【34】 ・他の生物だけでなく身体が弱い人には良い環境が必要であり、里山は生態系サービスとして重要だと思う。【50】 ・里山は民間所有で介入しづらいため、民間でも積極的に環境保全に関われるようにしたい。【85】 ・ビオトープや環境保全によって不動産価値が上がるようなインセンティブを与え、企業や民間が積極的に環境保全に関われる取り組みが必要である。【86】 ・里山コモンズといった考え方で、里山コモンズを共有財産として捉え、経済的な価値を与え、管理できると良い。【105】 ・街中の緑を適切に管理し、様々な人が利用し、安らぎのある場所を作ってほしい。【No.168】 ・自然と共生できる場所が増えてほしい。【No.183】 ・都市と里山との融合、自然豊かな人間もほかの生き物も住みやすい都市になると良い。【No.214】 ・積極的に自然界に自然を壊さず介入し、2次的自然と調和した未来になってほしい。【No.216】 ・自然破壊を減らしたり、放棄されている里山を減らしたりして、少しでも生物多様性が高まること。【389】 ・いつでも親しめる自然があると良い。【No.160】

	課題・問題点	対策・意見	夢
アンケート (市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・都川の親水公園に以前は沢山いたザリガニが見当たらなくなっていた。【No.1】 ・都川本流の魚類の個体数が減少し、耕作放棄地の増加で生物の生息環境は悪化している。【No.3】 ・ウシガエルやキョンなどの外来種による影響で、里山の地形、環境、在来生物の多様性が失われつつある。【No.4】 ・みなと公園の池に鯉が1匹もいなくなった。【No.10】 ・心ない人による生き物のリリースが問題である。【No.40】 ・小川にメダカが多数生息している。又ギバチやホトケドジョウ等を未来にSDGsできれば良い。【No.47】 ・夜間の光害が生物に及ぼす影響が懸念される。【No.49】 ・自然と大多数の人間との自然の触れ合いが乖離している。【No.61】 ・水辺の生物多様性が減少している。【No.75】 	<ul style="list-style-type: none"> ・水環境、水循環と生物多様性の保全、再生への取り組みや計画を市民に意識させる運動や報告が必要だ。【No.484】 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な動物と触れ合えると良い。【No.161】 ・きれいな水質で生物たちが暮らしていけると良い。【No.163】 ・生物多様性を身近に体験できる場所として、坂月川やその周囲の里山を守りたい。【No.172】 ・放置されている周辺土地をビオトープに整備保全し、生物多様性を実感出来る場所として少しでも増やしていきたい。【No.174】 ・在来種が住み良い環境を構築したい。【No.180】 ・昭和時代までに存在した里地里山の生物のにぎやかさを復活させたい。【No.188】 ・多様な生物がバランスを取りながら暮らす社会。【No.193】
アンケート (事業者)	<ul style="list-style-type: none"> ・ムクドリなどの大量発生、野良猫の放置、無責任なエサやり問題などが課題である。【No.123】 		<ul style="list-style-type: none"> ・昔ながらの在来種が存在できる生態系の維持。【No.228】
アンケート (活動団体)	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の影響により生態系が大きく変化し、数年前まで多数確認できていた生息生物が激減している。【No.137】 ・多くの方が自然環境に触れて生物多様性を保全する機会が少ない。【No.139】 ・園芸植物の自然植生への導入が各地で見られる。【No.140】 ・観察出来る野鳥が年々激減しており、電磁波の影響も含めた原因究明が必要である。【No.142】 ・地権者、地域住民、NPO、行政などが生物多様性の重要性を理解し、協力する姿勢が課題である。【No.149】 ・現在の生物多様性の概念は、生態系の中のバイオシステムしか考慮されていない。【No.157】 ・ジオシステムを含めた幅広い観点から生物多様性を守っていくことが課題である。【No.157】 ・「生物多様性」問題とそれぞれができる行動様式についての認知度を高める。【No.158】 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性が豊かなエリアをつなぐ緑の回廊を設置する。【No.147】 ・ジオシステムの観点も取り入れた、総合的な生物多様性のあり方について検討してほしい。【No.246】 ・地域環境を守る取り組みのため、有識者からの情報発信を行う。【No.465】 ・環境への負荷が高いプラスチック類や動力源としての石油の使用量をできるだけ削減する。【No.471】 ・生物多様性を守ることは、健全な地質環境や水循環を保全することにつながる。【No.448】 ・生物多様性の保全が必要な場所を保全する仕組みを設置してもらいたい。【No.451】 ・鳥類・昆虫類の多様性向上を実現する管理手法の確立とノウハウの拡散。【No.464】 ・緑地の再生による生物多様性（在来種）の向上を実現させる。【No.470】 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性保全の取り組みが断片的あるため、残存緑地の質的向上とともに緑地間の繋がりを作り、市街地へ拡大することが望ましい。【No.240】

(5) 谷津田の保全

	課題・問題点	対策・意見	夢
セミナー・ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・谷津田の人為的改変が進むおそれがある。【124】 ・貴重な谷津田の存在や保全活動が市民に知られていない。【219】 ・市民の間で、谷津田や里山が共有資源であるという意識が低い。【220】 ・市民が谷津田や里山などの自然に触れる機会が減少している。【221】 ・行政の内部において、谷津田の保全事業への関心がうすい。【223】 ・市民参加や協働の必要性が叫ばれているが、谷津田・里山における市民活動は低調であり、行政のバックアップが必要である。【227】 ・生物多様性が失われているが、谷津田には生物多様性が残されているところもある。【229】 ・谷津田、里山ともに利用されておらず、荒れ放題になっている。【230】 ・谷津田環境の森林が荒れている。【231】 ・森林、公園、水田、谷津田などの緑地や水環境には、例え荒れていてもヒートアイランド現象を防ぎ、気候変動を抑制するという多面的な機能があることへの理解が十分ではない。【252】 ・貴重生物をキーワードに谷津田の魅力を発信したいが、注目されることにより生物を持ち去りされることが心配である。【301】 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が里山や谷津田を訪れ、体験することができる場を創出し、発信する。【111】 ・谷津田の環境がこれ以上悪くならないような活動を推進する。【190】 ・谷津田環境について、多くの市民に知ってもらおう。【218】 ・谷津田や里山などの自然環境が政令指定都市に残っていることを発信する。【224】 ・谷津田の斜面林を自然環境保全地域に指定する。【240】 ・自然観察を通じて谷津田の良さを伝え、観光を通じた環境教育を行う。【250】 ・谷津田の保全に森林環境譲与税を活用する。【261】 ・泉谷公園などの公園内に谷津田環境を創出する。【286】 ・大きな都市公園に谷津田環境をつくり、自然が体験でき、水に触れたり、泥んこになったりできるようにする。【336】 	<ul style="list-style-type: none"> ・谷津田の自然環境が守られ、手入れが行き届いている環境を創出する。【25】 ・谷津田にトキが舞う。【137】 ・フィールドミュージアムとして自然度の高い谷津を存続させたい。【138】 ・谷津田の自然を体験できる機会が増え、市民に知ってもらいたい。【233】 ・谷津田環境は大気汚染の浄化に役立っていることなど、その大切さを知ってもらいたい。【234】 ・里山や谷津田が子どもたちの遊び場にしたい。【245】 ・谷津田保全とプレーパークのコラボにより、谷津田に人が集まる。【246】 ・生物多様性を知ってもらおうよう、谷津田資源を観光的にも活かしたい。【251】 ・再生できる谷津田を増やし、生物多様性を学んだり知ってもらいたい。【386】
アンケート (市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・水源である河川上流部の谷津田が放棄されて、生物多様性が失われている。【No.71】 ・里山や谷津田の荒廃が著しく、植生や在来の動物の多様性が下がっている。【No.84】 ・谷津田で外来生物が繁殖し、貴重種が脅かされている。【No.104】 	<ul style="list-style-type: none"> ・谷津田保全に関わる主体的な市民を育てる。【No.305】 ・谷津田保全地域を特別緑地保全地区に指定する。【No.305】 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の谷津田を買い取って千葉市に寄付して、千葉市が維持してくれたら良い【No.203】 ・谷津田の田んぼや里山の自然環境が、農業や林業、レクリエーションの場、生活の場として活かされていると良い。【No.209】 ・谷津田保全事業の重要性への理解が深まり、谷津田が特別緑地保全地区として保全され、多様な生きものが絶滅することなく生息している。【No.210】 ・管理された谷津田、保全が行き届いた森、人々の憩いの場となる雑木林、そして人々の活動の場が生活の場と一続きになり、多くの生きものが自由に行きかうことができる環境となること。【No.211】
アンケート (事業者)	<ul style="list-style-type: none"> ・谷津田・水田・畑など不耕作や荒廃している里山の保全活用が課題である。【No.138】 	<ul style="list-style-type: none"> ・源流域の森林や谷津田を含めた総合的な保全【No.419】 	
アンケート (活動団体)	<ul style="list-style-type: none"> ・谷津田・水田・畑など不耕作や荒廃している里山の保全活用が課題である。【No.138】 ・谷津田の環境保全を実施されているが、田んぼの再生と維持が主体であり、生物の保護対策が少ない。【No.145】 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒廃した林地、谷津田は無理に再生させることなく自然の遷移に委ねる。ただし、竹林の様に放置すれば暴走する案件は、適切に矯正する。【No.147】 	

(6) 農業の振興

	課題・問題点	対策・意見	夢
セミナー・ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ネオニコチノイド系農薬への対応が課題である。トンボなどの生物が減ってきている。【129】 ・耕作放棄地が増えている。【226】 ・温暖化により雨が多くなっており、地面にしみこませることで、土地が豊かになり、農業にもよい影響がある。【361】 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業政策、林業政策を見直す。【226】 ・都市農業を安定して継続できるよう、農業を通じた良好な都市環境を形成する。【275】 ・30代で農業に関心を持つ人が増えているため、一反くらいの小さな面積でも農業ができるよう、制度をあらためる。【368】 ・耕作放棄地を活用し、子どもたちが米作りを体験できる機会を設ける。【394】 ・“週末農業・週末林業”に取り組む。【395】 ・放棄されていた畑を“共同畑”として複数人で借り、野菜を育てる。【398】 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の理解が得られて、農業が継続的に実施できる社会を創出する。【31】 ・小さな田んぼを借りて植えつけから刈り取りまで自分ですること、発見があることに期待したい。【97】 ・農業は敬遠されがちであるが、農業はカッコいい！と思ってほしい。【103】 ・現在ある農業・林業の環境を守る。【397】 ・“シェア田んぼ”を広め、市民が気軽に農作業に参加ができる仕組みを実現させたい。【399】 ・都市住民と農村住民との交流の場をつくりたい。【159】
アンケート (市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地が増えている。【No.51】 ・水田の水環境が農薬や耕作法の変化により破壊されている。【No.91】 ・イノシシによる踏み荒らしで農業継続が危ぶまれている。【No.104】 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業が生物多様性保全に果たす役割を再認識し、害獣対策を行い農家の耕作放棄を防ぐ。【No.305】 	<ul style="list-style-type: none"> ・食材を輸入に頼らず、国内で賄えるような安心・安全な土壌作り。【No.190】 ・農地・山林(緑地)を保全し、併せてその水環境も維持する。【No.219】
アンケート (事業者)			
アンケート (活動団体)	<ul style="list-style-type: none"> ・森林、耕作放棄地の整備。【No.153】 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地に水質浄化に最適なマコモ米を育成させ、水環境向上を目指してほしい。【No.455】 ・耕作放棄地については、シェア田んぼのような仕組みを作れば、市民の関心向上や生態系復活も目指せるのではないかと。【No.503】 	<ul style="list-style-type: none"> ・休耕田になる前に生息していた、トウキョウダルマガエルを再度呼び戻したい。【No.245】

(7) 開発行為・廃棄物

	課題・問題点	対策・意見	夢
<p>セミナー・ワークショップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・谷津田の上流部にゴミの不法投棄がみられ、谷地田に影響を及ぼしている。【14】 ・里山の中にも産業廃棄物が不法に投棄されている。【20】 ・斜面林へのソーラーパネルやヘリポートなど人為的な破壊が進んでいる。【45】 ・事業者による土砂流出で水源林が埋まってしまう。【46】 ・開発によって失われてたものの復元は難しい。【68】 ・プラスチック容器入りの総菜等が多く販売されるようになり、そのゴミが最終的にどう処理されるのか疑問である。【144】 ・森林の減少や荒廃が進んでいる一方、所有者の管理の限界からの世代交代により宅地化が進んでいる。【312】 ・川沿いに資材置き場のようなものがあり、錆が流れ出て水質が悪くなっている。【118】 ・太陽光発電所の建設により、森林伐採が行われたり畑が減少したりして、里山が消失している。【123】 ・里山に資材置場が増え、環境に悪影響を与えている。【126】 ・谷津田環境の中に資材置場が増えており、水質の悪化や大型トラックによる大気汚染が進んでいる。【232】 ・谷津田は道路が狭いため産業廃棄物や不法投棄はみられないが、森にはゴミが捨てられている。【326】 ・ボランティアの管理が行き届かない場所にゴミが捨てられている。【328】 ・太陽光パネルがガイドラインを無視して設置され、大量ゴミが発生し、洗浄洗剤により土壌や水質が汚染している。【334】 ・カラスがゴミ捨て場を荒らしている問題についても考える必要がある。【359】 	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県にある産廃処理業の取り組みを参考に、企業が取り組みを推進できるように市が働きかける。【290】 ・ゴミを捨てないよう警告看板などを設置し、注意喚起する。【329】 ・廃棄物やゴミを捨てにくい環境とするために、周辺住民への啓発を行う。【330】 ・海藻を使ってマイクロプラスチックを除去するなど、行政などと協働で取り組む。【354】 ・埼玉県のリサイクル業者が、環境体験学習の実施や海外からの見学を受け入れ、荒れた森の復元や保全活動を行っており、千葉市でもモデルにする。【372】 	<ul style="list-style-type: none"> ・資材置場問題などの負の面を体験できるような工夫をする。【152】
<p>アンケート (市民)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地や草地の太陽光発電所化や丘陵部の開発による生態系の変化が見られる。【No.40】 ・市街化調整区域の山林等で事業場等に土地利用が改変されること。【No.56】 ・産業廃棄物の中間処理業者が野ざらしにしている廃棄物が流れ出し、土壌や地下水を汚している。【No.59】 ・森が伐られ、ゴミや産業廃棄物の捨て場は未整理のまま増えている。【No.70】 ・搬入された汚染土壌から有害物質が地下水拡散している事例がある。【No.109】 	<ul style="list-style-type: none"> ・産廃業者やリサイクル資源置場に置ける施設の在り方を厳しくしていくべきだ。【No.302】 ・ソーラーパネルの設置を規制する。【No.371】 ・樹木を伐採せず、移動させる。【No.371】 ・宅地やメガソーラー等の開発は、安全な水・住み続けられる街づくり・海の豊かさ・森の豊かさといった目標から逆行している。【No.476】 ・市街地開発などによる雨水排水を増やすことなく、涵養林の機能を回復させて水循環の健康回復を行うことが必要ではないか。【No.477】 ・合成洗剤など直接水資源を汚染する商品の販売を禁止してはどうか。【No.491】 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市がこれ以上拡大せず、都市と山里、自然界がしっかり隔離していること。【No.213】

	課題・問題点	対策・意見	夢
アンケート (事業者)	・生活排水をクリーンなものにしないといけない。【No.131】	・都市化にせず、出来るだけ自然を残す事を推進してほしい。【No.418】 ・海への不法投棄の監視をする。【No.421】	・温暖化を防ぐため太陽光設置の工事を進めている。【No.226】
アンケート (活動団体)	・ごみ減量、農薬や合成洗剤等の使用削減が課題である。【No.153】	・無秩序であれ有秩序であれ開発行為を大胆に抑制する。【No.147】 ・資源浪費型企業への規制を強化する。(課税強化、諸優遇措置の撤廃など)【No.147】	

(8) 人材の確保・育成

	課題・問題点	対策・意見	夢
セミナー・ワーク ショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークを教えることができる教師が少ない。【7】 ・生物多様性を教えることができる教師が少ない。【8】 ・実際のフィールドで実験を行う教師が少ない。【9】 ・様々な課題に対して、谷津田ボランティアだけで頑張ってもこれ以上は無理と感じる。【52】 ・保全活動に関わっていた方が高齢化しているため、生物多様性地域戦略など計画づくりをしても実践できない。【63】 ・ボランティア活動への参加者の高齢化や減少がすすんでいる。【102】 ・里山地域の住民の高齢化や後継ぎ問題により、土地が売られて資材置き場等になってしまうなどの危機感を持っている。【130】 ・河川の全体像がわかっているボランティアが主導して植栽を進めた方が良いが、市民が主体的にやろうとしていることを行政は邪魔しないしてほしい。【184】 ・里山を守る人材が不足し、高齢化による後継者不足、都市化が進んでいる。【269】 ・自然環境に取り組む市民側の人材が高齢化のため人材不足であり、活動継続が難しい。【280】 ・谷津田の保全活動をしており流域の河川の状況が気になるが、そこまで手が回らない。【303】 ・活動している地域の上流にある調整池の活動をしている団体と連携しようと思ったが、他の団体が手を出しづらい雰囲気だった。【304】 ・ボランティアとして森林の状況は気になるが、管理まではできない。【314】 ・団体メンバーの減少や高齢化、後継者不足が進展している。【364】 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体が解散しないよう、谷津田保全の取り組みに対する人材を育成する。【39】 ・環境保全への関わりをスポーツクラブ代わりやサークル活動として呼びかけ、ボランティアの人材確保に繋げる。【75】 ・森林管理に携わる人の高齢化に伴い、ボランティアのコーディネートを市が担う。【319】 ・高校生などの若い人を団体の活動に引き込めるようにする。【369】 ・大学と連携をしてプレーパークのリーダーを育成する。【249】 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業法人化することにより、若者が農業に参加しやすい環境を創出する。【23】 ・谷津田の環境保全活動に多くの人が参加する。【24】 ・印西市在住の文化人類学・自然科学の専門家ケビン・ショートさんが案内する小学生向け自然観察会があったが、とても好評だった。【98】
アンケート (市民)		<ul style="list-style-type: none"> ・自然を汚すような不法投棄をしない人間づくり。【No.313】 	<ul style="list-style-type: none"> ・保全の必要性・重要性を知って多くの人が取り組み、予算的にも充実し、専門の職員が配置されること。【No.210】
アンケート (事業者)			
アンケート (活動団体)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門知識を有した人材の確保と連携が課題である。【No.144】 		

(9) 環境教育・環境学習

	課題・問題点	対策・意見	夢
<p>セミナー・ワークショップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備が十分でないと、廃れた環境での見学会や観察会を行うことになってしまう。【198】 ・水が自分たちの生活にどのように関わっているか、体験を通じて知る必要がある。【380】 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生・幼児に対して自然体験を行う機会を創出する。【35】 ・教師に対する自然体験機会を設ける。【37】 ・水辺環境推進員または水辺の生き物探検隊の方に先生をしていただく。【36】 ・子どもが生物多様性への興味を持てるような教育する。【73】 ・小学校などの教育の場で、生物多様性を体験する。【74】 ・学校や公民館を利用して、講座開催や交流・体験の場づくりをする。【160】 ・子どもの頃から環境について教育する機会を増やし、水環境や生物多様性について考えられる人間を育てる。【268】 ・バス会社に協力してもらい、路線沿いにある公園や谷津田などの最寄りのバス停がわかるような案内や表示をしてもらえれば、知ってもらう機会の増加になる。【237】 ・モノレール駅などにある案内地図に、谷津田や里山、公園等の施設の案内を入れる。【238】 ・住宅団地の近くなど、アクセスの良い場所にある里山などにプレーパークを設置する。【248】 ・市民が自然体験や参加できる機会を増やしたい。【279】 ・大きな河川沿いには工場などが立地していることも多いので、流域沿いの企業を巻き込んだ河川保全を行えばメリットを活かす。【310】 ・千葉市は穏やかな環境で、縄文時代から恵まれた生活が営まれてきたことを、多くの市民が知るようにする。【371】 ・大人も子どもも楽しめる、山の中であって水辺に親しめるキャンプ場をつくる。【400】 ・千葉は里山や水辺など自然資源が豊富なため、水循環を知ることができる旅を観光の目玉とする。【402】 ・自然や水は子どもたちにとっても大切な財産であるということを、実体験として学ばせる。【370】 ・子どものうちに自然体験をさせる。【374】 ・海の近くの小学校や中学校の子どもたちに、もっと気軽に海に触れたり、ビーチクリーンを行ったりする環境教育を取り入れる。【393】 ・花見川終末処理場にソーラーシェアリングを導入し、農作物を育てる（学校給食に利用することで、地域の学校の環境と食の学びの場とする）。【396】 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地で見てみないとわからないといったことがあるため、現場で見て感じるができる環境を創出する。【94】 ・千葉市科学館での自然観察会を継続して、市民の理解促進を図る。【99】 ・里山活動が活発化するため、レクリエーションのように身近な自然体験として参加できる場を設ける。【104】 ・環境学習棟のように拠点となる場所を整え、市民と里山を繋げられるようにする。【113】 ・千葉市には、自然環境に恵まれていることを伝える学校の副読本をつくって欲しい。【343】 ・学校に田んぼを設けるなど、教科書で学ぶだけでなく、体験ができるようにする。【347】 ・自然環境を体験する学びの機会を増やす。【147】 ・就学前から生涯にわたり、里山や里海について学べる機会を増やす。【149】 ・高齢者が子どもに遊びを教えるような場面が復活する。【247】 ・ビオトープに遊びに来る子どもたちに体系的に体験をさせることで、環境のことを親にも知ってもらう。【340】 ・博物館主催による里山・里海の自然観察会やイベントを多く開催し、子どもたちに気候変動について知ってもらう。【345】 ・子どもたちに井戸掘りの体験をしてもらう。【385】 ・小さい子どもから大人まで、身近に、気軽に自然に触れることができるようになれば良い。【388】
<p>アンケート (市民)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習活動に作物栽培といった科目を設ける。【No.203】 ・楽しみながら環境を考えるイベント等を開催してはどうか。【No. 	

	課題・問題点	対策・意見	夢
		472】 ・小学校などで、自然や生物の大切さや水との関わりを聞く機会があるとよい。【No.481】	
アンケート (事業者)			
アンケート (活動団体)	・次代を担う子供たちへの環境教育の場の拡充。【No.148】	・生物多様性に関する基礎知識・専門知識を取得するための勉強会・講習会を開催してほしい。【No.457】 ・地域住民への啓発活動を行う。【No.471】	

(10) ボランティア活動の推進

	課題・問題点	対策・意見	夢
セミナー・ワークショップ	・民有地の森林管理をボランティアでやると、枝払いなども市を通して地主の許可をとらねばならず面倒になってしまう。【315】 ・ボランティア活動をするたびにゴミを見つけるが、捨てた人はそのゴミがどうなるのかイメージできていない。【323】	・市民団体同士が連携する。【40】 ・生物多様性を保全するため、千葉市のボランティアマッチング事業を活用し、人材確保に繋げる。【78】 ・川の水質調査を行っている市民活動団体に、小学校での川遊び体験の指導等の環境教育をしてもらう。【239】	
アンケート (市民)		・外来種の出現調査、農政・公園・環境間での情報交換の徹底と状況共有、個々について対応策策定とその計画的な遂行、及び市民・活動団体への情報提供。【No.305】 ・自然保護活動をする団体との連携や、資金的援助も必要である。【No.486】	・高齢者数名で保全作業を実施している状態であるため、若い人に加わってもらえたら継続維持ができる。【No.175】
アンケート (事業者)			
アンケート (活動団体)	・流域全体の環境再生・改善・保全を目指す当会活動範囲をカバーする協業・支援制度がない。【No.154】 ・新型コロナウイルス感染症拡大にともない活動制限があること。【No.155】 ・保全作業のボランティアの高齢化で、いつまでできるかが問題である。【No.156】 ・環境活動をする人々を増やすこと。【No.158】	・行政だけではできないNPO法人等の活動を支援してほしい。【No.450】	・環境保全活動に取り組んでいる団体との連携・協働により、事業活動の水平展開をおこなっていききたい。【No.244】

(11) 行政の課題

	課題・問題点	対策・意見	夢
<p>セミナー・ワークショップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・谷津田を保全するための予算が少ない。【12】 ・谷津田を保全するための土地の担保が少ない。【13】 ・谷津田の耕作放棄地再生など、環境行政にかかる予算が少ない。【222】 ・行政は連携というが、本当にはやっていない。【51】 ・民有地の所有者が土地を売ることになったら活動できなくなる。【131】 ・環境保全課だけで対応できるものではなく、部署の連携や相談場所など、市の役割を知りたい。【162】 ・多くの市民にテーマに関することを知ってもらい、ワークショップの目的や、告知方法に工夫が必要である。【164】 ・ワークショップは都市や経済のことにもつながるので、環境行政だけでなく全市的に取り組むべきテーマである。【228】 ・都市部はコンクリートで地盤が固められているため、木を植えるだけでは涵養機能は回復できない。【298】 ・ボランティアだけで管理は難しいが、行政だけで管理も難しいだろう。【302】 ・大草谷津田生物の里では、ボランティアと市が連携して取り組むことによって円滑に管理ができているため、市の協力も重要である。【305】 ・緑区は病院や障害者施設が集積しているが、環境が荒らされ弱者が守られていない。【335】 ・花見川終末処理場にビオトープがあったが、設備が放置されて荒れている。【382】 ・場所によって管轄が市と県に分かれているため、ゴミ箱の設置やゴミの回収などがスムーズにいかない。【350】 	<ul style="list-style-type: none"> ・谷津田を守る条例を制定し、併せて水源地域に産業廃棄物処理がされないように対策を行う。【41】 ・雨水の地下への涵養のために、新築住宅への雨水浸透桝設置の義務付けする。【43】 ・水質汚染防止法の強化が必要である。【47】 ・生物多様性を保つため、里山を利用する。【59】 ・農政と水環境関係が一緒に行える行政の部署を設ける。【60】 ・課題解決のために公民館などでの座学の機会をつくる。【62】 ・環境保全課と教育分野などが一体となって環境保全に取り組む。【79】 ・地球温暖化対策推進法により再生可能エネルギーのプラントが生物多様性上保全すべき地域内にできてしまわないよう、都市計画を立案する。【80】 ・自然環境による災害抑制効果を数値化し、多くの市民に理解してもらおう。【81】 ・東京都が設けている環境確保条例などの規制を、千葉市でも参考にする。【89】 ・IT 関係者などから、地域通貨やポイント制の活用方法についてのアイデアを募集する。【108】 ・官と民が共同で生物の復活に取り組むプロジェクトを行う。【104】 ・こういったワークショップが頻繁に開かれて、市民と行政がコミュニケーションをとれると、方向性などについてお互いにわかりあえると思う。【163】 ・市長が率先してワークショップに参加し、市の真剣さを見せる。【167】 ・行政の中に「対策室」のような組織を設置する。【169】 ・浸透性の舗装をするなど、土壌に保水性がもてるようする。【175】 ・サイクリングコースは、通学にも利用されているので、草木を管理して危険のないようにする。【181】 ・活動に携わっていない人への情報発信を行う。【196】 ・サイクリングコースは市や県をまたぐものもあるため、流域として連携できると良い。【182】 ・今までの計画を評価・検証し、達成できなかった部分を確認し、次の計画に反映できるようにする。【191】 ・現行の水環境保全計画を評価し、さらに生物多様性の点での評価ができるが良い。【192】 ・目標設定にあたっては、定性的なものだけでなく、定量的なものも設定する。【193】 	<ul style="list-style-type: none"> ・市政に市民の力を活かしてほしい。【32】 ・公園に築山などの土の部分の設けるようにしたい。【346】 ・千葉市の環境全体が見えるジオラマをつくってほしい。【384】 ・海辺にキッチンカーなどの出店をしやすくし、市民が集ったりできるようにしたい。【405】 ・里山を維持するため、経済的に成り立つしくみを考える。【48】 ・長期的なビジョンでコスト面を考え、緑地を保全できるしくみ、行政の体制、市民の参加を考える。【49】 ・趣味と清掃活動で得た収益を Love the Earth 活動の資金に充てる。【92】 ・課題や問題点に対する取組みを行うための予算を確保する。【165】 ・森林環境譲与税について、使途を公開し効果が検証されると、市民の関心の高まりにもつながる。【225】

	課題・問題点	対策・意見	夢
		<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市水環境保全計画をPDCAで取り組む。【194】 ・失われた緑地は植林などで復元する。【203】 ・里山に手を入れられないのであれば、野生の自然に帰すという選択肢も検討する。【204】 ・行政にはワンストップ窓口の設置や、横断的に活動を行えるようにする。【206】 ・自然環境を保全管理するには長い年月がかかるため、行政の担当者の異動を見直す。【207】 ・生き物が生息しづらい環境を人間が生み出していることを市民の理解を得る。【215】 ・生物を緑地、河川など場所ごとに縦割りで考えるのではなく、俯瞰した視点で保全計画を策定する。【216】 ・農村部のバスを環境にやさしいグリーンスローモビリティなどとし、バス停などに地域コミュニティの中核となるような施設を配置する。【254】 ・水環境保全計画の策定や環境問題に対する取り組みを、土木や公園関係の部署も交えて全市的に行う。【258】 ・課題についての議論等ができるよう“スマート協議会”を設置する。【259】 ・住宅地開発の際、雨水浸透施設の設置を条例等で義務付ける。【260】 ・浸透性の舗装にし、雨水を地下に浸透できるようにする。【267】 ・里山から都市へと続く緑と水の回廊をつくる。【273】 ・行政、企業、市民が取り組みを整理し、役割を決め、連携を取っていく。【281】 ・行政と協働で仕組みをつくり、自然環境を体験する場、参加できる機会を増やす。【282】 ・自然環境に取り組む市民のすそ野を広げるために、わかりやすく伝え、理解してもらう。【283】 ・市民と行政が連携しながら、市の計画や取り組みを確認する。【287】 ・環境政策課の取り組みや理念を、自然環境、水環境と関係のある部署と連携し、横断的に取り組むプロジェクトとする。【289】 ・特別緑地保全地区に指定されているエリアは縦割りにならないよう、千葉市全体として管理に取り組む部署を設け、行政が積極的に関与する。【317】 ・市による強制力も必要であるため、抑止力として行政処分や監視カメラの設置などを行う。【331】 ・公園の噴水の水を循環させるなど工夫をして、子どもたちが水の流れや水の大切さを知ることができるようにする。【337】 ・小学生や中学生の環境学習の場として、アマモ場を創生する。【341】 	

	課題・問題点	対策・意見	夢
		<ul style="list-style-type: none"> ・市と県の連携が課題であり、市民も交えた対話の場がほしい。【350】 ・行政が問題をどう捉えているかを明示することで、市民も考えを具体的に伝えたりしやすくなる。【367】 ・匝瑳市で営農型太陽光発電を進めている会社がある。フィルム型の太陽光発電設備も開発が進められているので参考にできないか。【373】 ・ワークショップへの参加を大学や高校にも呼びかけて、千葉市の水環境のことを知ってもらおう。【383】 ・自然環境の体験をまちなかの公園で体験ができるようにし、子どもたちの感性を育てる。【387】 ・市が所有しているバスで、自然体験をしたり、環境を知ることができる安価なツアーを行う。【403】 ・川と海をまわる観光ルートをつくり、レンタサイクルでめぐってもらおう仕組みづくりをする。【404】 	
アンケート (市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・異常気象による風水害の影響で、里山の地形、環境、在来生物の多様性が失われつつある。【No.4】 ・冠水する地域が多い。【No.42】 ・市からの啓発活動が届いていない。【No.55】 ・上下水道が完備していない。【No.67】 ・生物多様性について、市の職員の理解が不十分である。【No.82】 ・千葉市の生物多様性・ビオトープへの取り組みは、対象が希少種に偏りがちである。【No.86】 ・生物多様性に関する市政の予算的配分が不十分である。【No.83】 	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系を維持するための「特別緑地保全地区」は地権者にまかせるのではなく、保全管理の主体は行政が行う。【No.334】 ・市内および近隣市町村との環境保護政策と、それに関する活動の支援策が必要である。【No.307】 ・谷津田の保全とその周辺に乱立する産廃業者への行政指導を強化してほしい。【No.310】 ・半公的な調査を申請なしにできるよう、あるいは申請を簡略化してほしい。【No.312】 ・水道局や水事業を外資系に売却しない。【No.329】 ・生態系を維持するための「特別緑地保全地区」は地権者にまかせるのではなく、保全管理の主体は行政が行う。【No.334】 ・千葉市の生物多様性のポテンシャルを調査、評価し、都市計画、農村計画に活かす。【No.341】 ・宅地造成を制限する。【No.351】 ・次世代へ残す資源・資産を可能な範囲で確保する。【No.352】 ・すべての部局が生物多様性に配慮した行政姿勢に転換しなければならない。景観重視、効率重視の公園施策、道路施策、河川管理を転換する必要がある。【No.360】 ・市の施設すべての土地利用にビオトープの考えを導入するなど、施設利用者も楽しみながら学習できる空間とする必要がある。【No.360】 ・便利さより自然を残すような整備の仕方を考えてほしい。【No.366】 ・保全された区域の整備・活用をしてほしい。【No.367】 ・保全作業に必要な道具類の保管場所を現地近くに確保する。駐車場等も近くにできれば非常に良い。【No.368】 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民全体が自然環境の貴重さを理解し、その恩恵を楽しむ余裕という文化を持った千葉市になると良い。【No.159】 ・現況の自然環境が未来に継続的に維持されており、市民の憩いの場になっていると良い。【No.173】 ・残されている自然の必要な部分を保全・管理していき、将来の世代に残せるようにする。【No.177】 ・市民が誇れる様な、また移住したいと思える様な緑溢れる自然と共存出来る町になって行く事。【No.187】 ・多様な環境、空間を緑の散策路等でネットワークする。【No.219】 ・市街化区域の山林・農地を減らさないための規制、助成若しくは借り上げ又は買収を行う。【No.306】 ・千葉市職員の中に生物多様性を本気で取り組む人材を育成する。【No.342】 ・多くの税金をかけて取り組むべき問題とは思わない。【No.473】 ・公園整備のクラウドファンディングなどをしてみたら良いのではないか。【No.480】

	課題・問題点	対策・意見	夢
		<ul style="list-style-type: none"> ・民間ボランティア任せでなく、市がもっと柔軟に対応して実践する。【No.370】 ・市民や研究者の声をボトムアップした計画にする。【No.474】 ・行政が部署を越えて適切なバランスを見据える。【No.476】 ・千葉市内の自然環境のポテンシャル評価の高い箇所は、太陽光発電施設の設置が回避されるようなネガティブゾーニングが必要と考える。千葉市生物多様性戦略には、このことを位置づけしてほしい。【No.478】 ・水環境・水循環の視点で、生物多様性と関係、市民が取り組みやすい計画にする。【No.485】 ・水系ごとに計画性・継続性を持って、近隣の市町と取り組むべき問題を整理する。【No.486】 ・千葉市の取り組や計画づくり、目標等を、全世代に分かりやすくアピールすべきである。【No.492】 ・里山、里地、里川、里海と、流域全体を対象として計画策定すべきである。【No.493】 ・継続出来る環境づくりと不測の事態に対応する柔軟性を併せて、計画に入れ込む。【No.494】 	
アンケート（事業者）	<ul style="list-style-type: none"> ・稲荷町ではここ数年で何度か大雨の際オーバーフローを起こしている。【No.119】 ・豪雨が増えてきているため、洪水対策が重要となっている。【120】 ・防災や管理面を重視した整備が進み、水辺に近づけない構造のところが多く、自然と触れあう機会を阻んでいる一因になっている。【No.125】 	<ul style="list-style-type: none"> ・人類だけでは環境維持は出来ない事をもっとPRする。【No.122】 ・生物多様性保全の観点から、重要だと思われる樹林地、谷津田への税金軽減、維持費用の補助等、積極的な支援制度とする。【No.495】 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な環境、空間を緑の散策路等でネットワークがよい。【No.219】
アンケート（活動団体）	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地活動団体への周知・啓発の不足が見られる。【No.140】 ・対象が生活圏から離れた特殊地域・特定種に限られ、外来生物の駆除にも消極的である。【No.143】 ・千葉市の公園関係の部局ではまだまだ生物多様性への理解が足りない。公園でもできることは多々ある。【No.151】 ・外来生物の対応や規制について、もっと情報発信すべきである。【No.152】 ・縦割り行政の弊害で、里地、公園・緑地など、市の既存1部門の管理範囲内限定の活動だけが協業・支援対象の制度しかない。【No.154】 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の生活に寄り添った計画・施業でないと市民は関心を持ってない。【No.143】 ・海水準変動や地形の変化などの「ジオシステム」における時間の概念も含め、新しい計画には「ジオシステム」への配慮が行われることが必要である【No.146】 ・住宅地でも緑豊かな環境づくりを行う。【No.454】 ・市街地の雨水浸透やレインガーデンの整備などの促進。【No.501】 ・千葉市域が置かれている現状の職員全体への周知徹底と、それらを前提とした市民へ啓発を行う。【No.453】 ・県の『河川・海岸アダプトプログラムのように地域を特定しない環境保全活動への支援制度の確立が必要である。【No.456】 ・現在取り組んでいる「7つの事業」を継続させる。【No.461】 ・市域全体として欠如しているのは親水性と水辺地の整備を行う。大規模公園の水環境を整備すること以上に、生活圏にある水環境を整えることを優先すべきである。【No.500】 	

	課題・問題点	対策・意見	夢
		<ul style="list-style-type: none"> ・職員の運用の理解が不足していると効力が半減するため、計画策定にあたり職員のワークショップを繰り返し行う。【No.502】 ・環境の保全・再生を統括できる部署の設置と、ゾーンとしての環境保全活動への支援制度を確立する。【No.504】 ・新しい計画には、ジオシステムへの配慮が行われることが必要。【No.506】 ・計画策定にあたって「里山幻想」を捨てるべきである。人間が利用しなくなった山林、耕作放棄地などは自然の遷移に委ね、市民の生活空間の生物多様性を豊かにする方策を考え実現するために知恵を絞るべきである。【No.507】 	

(12) その他

	課題・問題点	対策・意見	夢
セミナー・ワークショップ			<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の人と共通のテーマで語り合いたい。【166】 ・若葉区で農地のソーラーシェアリング、風力発電、小規模水力発電など、エネルギーの自給ができるようにしたい。【253】
アンケート (市民)		<ul style="list-style-type: none"> ・ペット店での生体の販売を禁止する。【No.266】 ・江戸時代のように資源循環システム作りの促進。【No.475】 	
アンケート (事業者)	<ul style="list-style-type: none"> ・外気温度が上がる 3～4 月や 6～7 月に水の電導度が高い為かフィルターが詰まる。【No.118】 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民に我慢を強わず、冷静で適正な判断をする取り組みとその判断をする仕組みの構築。【No.424】 	<ul style="list-style-type: none"> ・量子科学技術により調和ある多様性を創造し、平和で心豊かな人類社会の発展に貢献することを目標としている。【No.234】
アンケート (活動団体)	<ul style="list-style-type: none"> ・建前や理想を口にするだけのグリーンウォッシュ企業、SDGs ウォッシュ企業の存続を許さない。【No.158】 		